

御所苑介護生産性向上プロジェクト 全体の流れ：2023年8月～2024年2月

(取組手順)

(実施内容)

P	手順1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・法人経営層への取り組みについての趣旨説明、活動承認 ・プロジェクトチーム結成、リーダー選出、メンバー選出 ・介護事業所向け生産性向上セミナー受講（ビギナー・フォローアップ） ・施設全職員へのキックオフ宣言、定例プロジェクト会議開始(週1回) ・全職員から「気づきシート」回収、因果関係図の作成 ・ワークエンゲージメント測定・分析 ・共通認識を持つための準備（専用HP、LINE WORKS、研修会） ・課題を細分化し実行計画立案、改善活動のための別チーム結成
	手順2	現場の課題を見える化しよう	
	手順3	実行計画を立てよう	
D	手順4	改善活動に取り組もう	<ul style="list-style-type: none"> ・細分化した課題の改善活動実施、職員アンケートにて事前KPI測定 ・テクノロジー活用の検討、試用・先行施設見学実施
C	手順5	改善活動を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケートにて事後KPI測定、効果検証 ・これまでの活動を振り返り、活動報告作成
A	手順6	実行計画を練り直そう	<ul style="list-style-type: none"> ・細分化した残りの課題を改善するほか、テクノロジー活用を踏まえた実行計画の見直し

手順 1 : 改善活動の準備

全員で取り組んでいる共通認識を持ち、各々が意見を出せる土台を作るために

工夫したこと

- ① 専用ホームページを作り、全職員へプロジェクト説明や進捗状況を公開した (QRコードにてスマホで簡単に閲覧可)

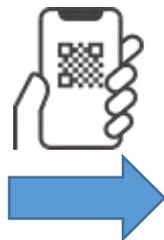
御所苑
介護生産性向上プロジェクトチーム
からのお知らせ

プロジェクトの進捗状況は、特設ホームページでお知らせします！

特設ホームページはこちら →
(QRコードをスマホで読み込んでください)

閲覧のためのパスワードは
「*****」です

プロジェクトチームミーティングは
毎週火曜日 午後4時～1層玄関前の机
で行っています。興味のある方、どなたでもご参加ください。



週1~2回更新

保護中: 進捗報告ページ

更新日: 2024/3/18

項目	進捗状況	担当
1. [入所] 1階・2階の利用者を分けて表示できない	利用者グループ登録 - 読み込みエラーの通知	伊藤 清
2. [全] 赤字変動が取り直し	職員共通の赤字変動状況作成	二宮 和也
3. [入所] 申し送り帳の赤字の修正が未完了	赤字の記録に統一、赤字をセルごと修正	一組 洋行

- ② プロジェクトチームメンバーと効率的に情報共有意見交換が行えるよう、ビジネス用コミュニケーションツール **LINE WORKS** を導入した



手順 1 : 改善活動の準備

工夫したこと

③研修会を複数回開催し、全職員にプレゼンテーションで説明を繰り返した

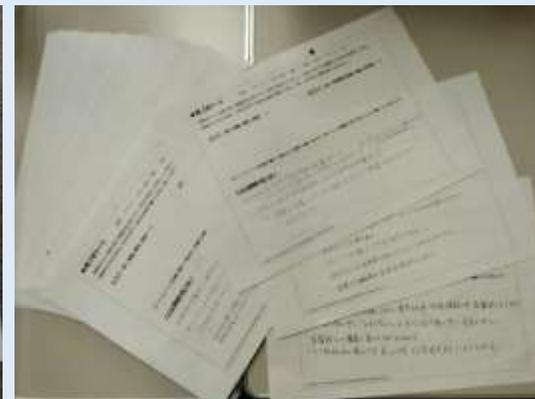


入所の職員に対しては、介護生産性向上に取り組むことで介護ロボット・ICT機器導入支援の補助率が高まり、導入しやすくなる**メリット**を具体例で伝え、**業務改善への期待感を高めるよう工夫**した

手順2：現場の課題の見える化

行った作業項目

気づきシートの配布・回収
(全職員)



「気づき」のグループ化



因果関係図の作成

なかなか原因に
たどり着けず
苦労しました！



手順2：現場の課題の見える化

「気づき」のグループ化からわかったこと

	グループ名	枚数
1位	人手不足	23
2位	介護ソフトが使いこなせていない	12
2位	業務手順マニュアル不足	12

重要な
課題



因果関係図から課題の文章化を行った結果

「**介護ソフト導入時の研修が不十分だったこと**」が原因で
「**介護ソフトが使いこなせていない**」問題が発生しており
「**慢性的な残業、情報共有不足**」が発生している

手順3：実行計画の立案

実行計画の内容

- 多くの課題の中から、**小さな改善**を達成しやすいもの2つだけ選定

専門用語が
変換できない

利用者を
階別表示
できない

- 課題解決に取り組むための別チームを立ち上げ

『介護ソフト操作研修チーム』



- 業務改善成果を測る指標（KPI）を設定

① 業務負担感（5段階アンケート評価）

② 時間外労働時間

手順4:改善活動の取組

介護ソフト操作研修チームによる改善活動の内容

専門用語が
変換できない



御所苑オリジナル漢字辞書を作成

- ①各職場から登録してほしい単語を収集
- ②定期的に辞書ファイルを作成
- ③各職場のチーム員が辞書登録作業実施

利用者を
階別表示
できない



介護ソフトのグループ機能を活用

- ①利用者の入退所ごとに階グループを登録する作業者を決め、手順書作成
- ②各職員へ機能について操作方法を伝達



チームで作成した手順書

記録業務の負担感を
自分たちで解決し
小さな改善ができた！



手順4:改善活動の取組

入所業務に特化したプロジェクト活動の内容

入所職員の業務負担感が高いことから、**介護ロボット・ICT導入に向けた調査活動**を開始。メーカーのご厚意で、以下の活動を実施できた。

シルエット見守りセンサー試用 (1週間)



シルエット見守りセンサーやICT機器を 先行導入している老健施設を見学



同じ介護ソフトを使用されており
記録方法やタブレット・インカム
を使った業務の実際を学びました

小さな改善事例の共有

見守りセンサー試用や、先行施設を見学して情報共有を行ったことによる変化

入所職員からの**自主的な提案**で、**介護の質の向上**に繋がる改善行動が増加！

利用者さんが自分で選べる
塗り絵・脳トレなどの
日中活動コーナーを新設



おむつ交換の時間を見直したことで

- ☆介護職員の記録時間を確保
- ☆夕方、利用者さんと共に過ごす時間ができ、穏やかな生活空間を実現

利用者さんの寝起き・排泄介助を
定時誘導で行っていたが
利用者さんの意向を確認して
一人一人に合わせ行うように

「前からこのやり方だから」「御所苑ではこれが普通だから」という業務手順を、**若い職員の見解で見直す動き**が生まれた



取組の成果

成果指標（KPI）の変化

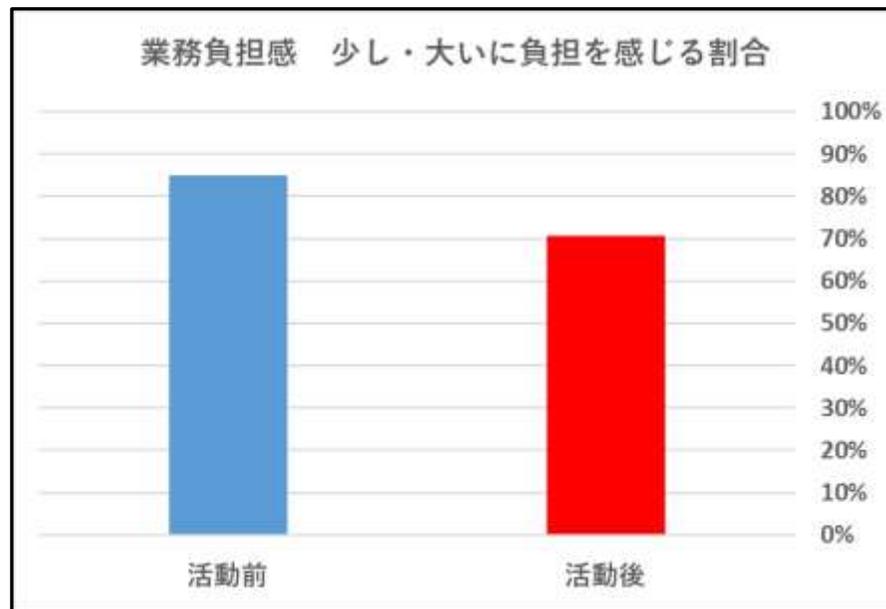
- ・活動前後で**入所利用者数が2割増加**
（月平均 77 → 93名/日）したが

①入所職員の業務負担感

業務負担感 85.0% → 70.6%と軽減

②入所職員の時間外労働時間

職員1人あたり(平均)
1時間35分 → 1時間16分に削減



成果指標以外の成果

- ・介護生産性向上プロジェクトの活動への理解が広がってきた
⇒職員アンケートで**34%の職員が「少し良い変化を感じている」と回答**
- ・活動に賛同した若い職員から、意見・アイデアが徐々に出るようになった
- ・介護ロボット・ICT機器導入への理解が高まってきた